

## 1 主題設定について

本校は、コミュニティ・スクールの強みを生かし、ふるさと学習の学びを深める機会を積極的に設けるとともに、ふるさとを誇りに思い、地域貢献に繋がる活動を展開している。

特に、吉田松陰先生の教えを大事にし、児童一人ひとりが夢や希望・志をもって、力強く歩むことができるような教育を目指している。松陰神社のすぐそばに位置する本校は、「至誠」を校訓としている。そこで、本年度も「松下村塾の志を柱とするキャリア教育の拠点校」として特に松陰教学に力を入れ、地域のひと・もの・ことを活かした魅力あるキャリア教育を推進し、それぞれの学年が創意工夫して主題解明にあたってきた。



## 2 活動計画及び内容の概略

### (1) 常時活動

- ① 全学年 朝の会における「松陰先生の言葉の朗読」
  - ・全学級朗誦文と松陰カレンダーを掲示
  - ・各学年学期に一つずつ朗読 3句×6学年=18句
- ② 全学年 終業式における「松陰先生の言葉の朗誦文の成果発表」

### (2) 授業での取組 ※場所は、学校及び学校周辺

- ① 地域コーディネーターとの打ち合わせ
 

本校では、松陰教学・ふるさと学習を含む様々な学習支援のために多くの地域の方に関わっていただいているが、そのキーパーソンが地域コーディネーターである。学校が必要とする人材を伝え、学校のニーズに合った地域の方を紹介していただくなど、地域コーディネーターの果たす役割は大きい。
- ② 2年：生活科「ときどきわくわくまちたんけん」
 

まち探検に合わせて、松陰神社に赴き、宮司さんに案内や解説をしていただく。「松陰神社で働いている人はどんな人？」など、松陰先生のことについてたくさん質問をする姿が見られ、丁寧に答えていただいた。
- ③ 3年：総合的な学習「松陰先生ゆかりの地を訪れよう」
 

松下村塾や伊藤博文旧宅・別邸、玉木文之進旧宅など、松陰先生ゆかりの地を探訪。地域の方に案内をしていただきながら、学びを深めることができた。今後、4年生に進級してからの本格的な調べ学習につないでいく。
- ④ 4年：総合的な学習「はじめまして松陰先生」
 

松陰読本や学校の松陰コーナーを活用したり、実際に松陰神社の吉田松陰歴史館で松陰先生について学習したりしながら、タブレットを活用してプレゼン用のスライドを作成し、互いに発表した。



### ⑤ 5年：総合的な学習「松陰ガイドをしよう」

松陰神社を訪れる観光客に対し、今まで松陰先生について学習したことを、紙芝居やパンフレット等にわかりやすくまとめてガイドした。本番を迎えるにあたって、下級生に説明したり、地域の方に聞いていただきアドバイスをもらったりして、プレゼンテーション能力を高めてきた。



### ⑥ 6年：総合的な学習「志発表会（松下村塾講義室）」

3学期に入ってから6年生は、今まで学んだ松陰先生の言葉の意味や背景などを詳しく調べ、その中から自分のこれからの目標につながる朗読を選び、思いを込める学習を行った。そして、卒業前に、小学校生活の総まとめとして、歴史ある松下村塾講義室で、松陰先生の言葉を朗読し、将来に向けた自分の決意を発表する。身の引き締まる貴重な体験は、子どもたちが志を抱く大きな機会となり、地域に生きる子どもたちの誇りにつながっている。



## (3) 地域貢献活動

### ○ 地域貢献活動（松陰神社横の遊歩道の清掃）

地域貢献活動として、いつもお世話になっている松陰神社横の遊歩道の清掃を、美化委員会の児童、5・6年生のボランティア、地域の有志、教職員で真心を込めて行った（本年度は、持久走大会前に行った）。



## 3 研修成果及び今後の課題

本校の教育は、松陰先生の教えを大切にしていこうとする気運の中で展開され、どの学年も、松陰神社をはじめ、地域の史跡へ出かけて学ぶ機会を計画的に設けている。

また、コミュニティ・スクールとして、地域のひと・もの・ことを巻き込みながら松陰教学やキャリア教育・ふるさと学習を推進することを通して、子どもなりの志を抱く姿が見られ、これまでの取組の継続の成果といえる。

本年度は、「学校だより」に本校の松陰教学や朗読文を特集記事として掲載することで、保護者や地域の方にお知らせして「開かれた教育課程」になるように工夫した。

今後も、6年生の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対して、肯定的な回答が高くなるよう、今まで以上に創意工夫してキャリア教育の充実を図ってきたい。

さらに、今まで以上に、学んだことが日常生活の中に生かされ、ふるさとを誇りに思う子どもを多数育成することを使命として取り組んでいくことと、入れ替わりの激しい教職員に、松陰先生の教えや松陰教学について、引き継いでいく研修体制をきちんと確立していくことを大切にしていきたい。このことも、地域のひと・もの・ことを活用しながら、計画的に進めていく必要があると考えている。

